

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号

特許第7094682号

(P7094682)

(45)発行日 令和4年7月4日(2022.7.4)

(24)登録日 令和4年6月24日(2022.6.24)

(51)国際特許分類

F I

A 4 7 B 96/20 (2006.01)

A 4 7 B 96/20

E

A 4 7 B 13/08 (2006.01)

A 4 7 B 13/08

A

A 4 7 B 96/20

A

請求項の数 7 (全9頁)

(21)出願番号 特願2017-191352(P2017-191352)
 (22)出願日 平成29年9月29日(2017.9.29)
 (65)公開番号 特開2019-63223(P2019-63223A)
 (43)公開日 平成31年4月25日(2019.4.25)
 審査請求日 令和2年8月20日(2020.8.20)

(73)特許権者 000001351
 コクヨ株式会社
 大阪府大阪市東成区大今里南 6 丁目 1 番
 1 号
 (74)代理人 100137486
 弁理士 大西 雅直
 (72)発明者 坂上 浩三
 大阪府大阪市東成区大今里南 6 丁目 1 番
 1 号 コクヨ株式会社内
 (72)発明者 柴本 康広
 大阪府大阪市東成区大今里南 6 丁目 1 番
 1 号 コクヨ株式会社内
 (72)発明者 小谷 雄介
 大阪府大阪市東成区大今里南 6 丁目 1 番
 1 号 コクヨ株式会社内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 家具用パネル材及びデスク

(57)【特許請求の範囲】

【請求項 1】

薄板で構成された基材の表面にシートを貼ったものであって、前記基材の第 1 の縁部が表面側から裏面側に向かって折り返され、この折り返した折り返し部が前記シートで連続して被覆されており、前記第 1 の縁部と交差する第 2 の縁部が平板状であり且つ当該第 2 の縁部における前記基材の端縁がさらに前記シートで連続して被覆されていることを特徴とする家具用パネル材。

【請求項 2】

前記基材の裏面側には、当該基材の裏面に接触して当該基材を下方より支持する部材が設けられている請求項 1 記載の家具用パネル材。

【請求項 3】

前記第 2 の縁部において前記基材の裏面にエッジ材を配し、このエッジ材は前記第 2 の縁部からはみ出していないように配されている請求項 1 または 2 記載の家具用パネル材。

【請求項 4】

前記シートが前記第 2 の縁部に配置された前記エッジ材を被覆している請求項 3 記載の家具用パネル材。

【請求項 5】

前記シートが前記第 1 の縁部における前記基材の端縁を被覆している請求項 1 ～ 4 の何れかに記載の家具用パネル材。

【請求項 6】

複数の前記家具用パネル材の前記第 2 の縁部同士を突合せて配置したときに前記シートが連続して見え、前記エッジ材は表面上見えないことを特徴とする請求項 3 または 4 に記載の家具用パネル材。

【請求項 7】

請求項 1 ～ 6 の何れかに記載の前記家具用パネル材が天板として構成されていることを特徴とするデスク。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、オフィス等において好適に使用され得る家具用パネル材及び当該家具用パネル材を天板として用いたデスクに関するものである。

10

【背景技術】

【0002】

従来、オフィス等において好適に使用され得るデスクでは、使用者が好適に使用し得るよう、天板本体にメラミン化粧板を貼った構成が一般的である（例えば、特許文献 1 参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【文献】特許第 5 2 7 2 3 0 5 号公報

【発明の概要】

20

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら上記特許文献に記載のようなものは、メラミン化粧板は硬く（小さな曲率で）曲げ加工ができないために、通常は縁部で切落とし、切断面を覆い隠すようにエッジ部材を取り付けているのが通常である。このため、着座者からみて平面視したときに天板本体とエッジ部材の境界線が目につき易く、特に天板使用縁における段差も生じ易い。また、天板同士を隣接させたときに、天板本体の間にエッジ部材が二重に介在するので、面一性や連続性に影響が出やすい。

【0005】

本発明は、上記のような課題を解消することを目的としており、同形状をなす家具用パネル材を並べるように配置したときに、それぞれの家具用パネル材が有するシート同士の境界が見え難くなり、より自然な見た目を提供することを目的とするものである。

30

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明は、かかる目的を達成するために、次のような手段を講じたものである。

【0007】

本発明に係る家具用パネル材は、薄板で構成された基材の表面にシートを貼ったものであって、前記基材の第 1 の縁部が表面側から裏面側に向かって折り返され、この折り返した折り返し部が前記シートで連続して被覆されており、前記第 1 の縁部と交差する第 2 の縁部が平板状であり且つ当該第 2 の縁部における前記基材の端縁がさらに前記シートで連続して被覆されていることを特徴とする。また本発明に係るデスクは、前記家具用パネル材を用いて天板を構成していることを特徴とする。

40

【0008】

このようなものであれば、同形状をなす家具用パネル材を並べるように配置したときに、それぞれの家具用パネル材が有するシート同士の境界が見え難くなり、より自然な見た目を提供することができる。

【0009】

家具用パネル材の剛性を確保しようとするためには、前記基材の裏面側には、当該基材の裏面に接触して当該基材を下方より支持する部材が設けられていることが望ましい。

【0010】

50

さらに、基材に対してシートを好適に被覆し得るようにするためには、前記シートが前記第１の縁部における前記基材の端縁を被覆していることが望ましい。

【００１１】

また、家具用パネル材を複数並べた際に、シート同士の境目をより目立たなくするためには、第２の縁部において基材の裏面にエッジ材を配し、このエッジ材は第２の縁部からはみ出ていないように配することが好ましい。

【００１２】

そして、家具用パネル材を複数並べた際に、シート同士の境目をより目立たなくするための他の構成としては、前記シートが前記第２の縁部に配置された前記エッジ材を被覆している態様を挙げることができる。

【００１３】

すなわち、本発明に係る家具用パネル材は、同形状をなす複数の家具用パネル材の第２の縁部同士を突合せて配置したときに前記シートが連続して見え、エッジ材は表面上見えないことを特徴とする。

【発明の効果】

【００１４】

本発明は、以上説明した構成であるから、同形状をなす家具用パネル材を並べるように配置したときに、それぞれの家具用パネル材が有するシート同士の境界が見え難くなり、より自然な見た目を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【００１５】

【図１】本発明の一実施形態に係る外観図。

【図２】同上。

【図３】同実施形態にＡ部の説明図。

【図４】同実施形態にＢ部の説明図。

【図５】同要部を示す平面図。

【発明を実施するための形態】

【００１６】

以下、本発明の一実施形態を、図１～図５を参照して説明する。

【００１７】

本実施形態のデスクは、例えばオフィスや会議室にて好適に使用され得るものである。

【００１８】

このデスクは、床面から立設される脚体１と、この脚体１上に載せ置かれてなる天板２とを主体とするものである。

【００１９】

脚体１は、図１に示すように、床面に配置されるアジャスタ１１と、このアジャスタ１１から上方に接続されるとともに天板の平面視四隅近傍にて上方に延出する脚支柱１２と、この脚支柱１２の上端同士を接続しつつ直接的に天板を下方より支持してなる天板支持部１３とを有している。当該脚体１は、本実施形態では例えば板金を適宜屈曲成形させたものや、金属の一体成形により形成されるものがあるが、いずれにせよその詳細な説明を省略する。

【００２０】

そして本実施形態では、上記脚体１の上端に天板２が載せ置かれた状態で固定されている。

【００２１】

天板２は、例えば板金素材を平面視開口する概略箱状に折り曲げ成形され脚体１に直接接続する箱体２１と、この箱体２１の上面を覆うように形成された基材たる天板形成体２２と、この天板形成体２２の表面を覆うシート２３と、天板形成体２２の側面をシート２３の上側から覆うエッジ材２４とを有している。

【００２２】

ここで、本実施形態に係るデスクは、並びに当該デスクを構成するための家具用パネル材

10

20

30

40

50

である天板２は、薄板で構成された基材たる天板形成体２２の表面にシート２３を貼ったものであって、天板形成体２２の第１の縁部２５が表面側から裏面側に向かって折り返され、この折り返した折り返し部が前記シート２３で連続して被覆されており、第１の縁部２５と交差する第２の縁部２６がさらにシート２３で連続して被覆されていることを特徴とする。

【００２３】

以下、本実施形態に係るデスクを構成する家具用パネル材である天板２の具体的な構成について説明する。

【００２４】

天板２は、図１～図５に示すように、脚体１に接続される箱体２１と、この箱体２１の上面側に配される基材たる天板形成体２２と、この天板形成体２２の底面或いは裏面以外の各面を覆うように設けられたシート２３と、天板２の側方をカバーするためのエッジ材２４とを有している。箱体２１及び天板形成体２２は、例えば薄板状の板金素材を適宜折り曲げ成形することによって形成されたものであり、これら箱体２１並びに天板形成体２２は例えばスポット溶接等の手段により固定されてなるものであるが、これら箱体２１並びに天板形成体２２は溶接のみならず、適宜ねじ止めや凹凸係合等による嵌め合わせや、別異の接着剤にて接着するような態様によって固定する態様を否定するものではない。

【００２５】

箱体２１は、上述の通り板金素材を上方に開口するように成形することにより概略箱状に形成したものである。この箱体２１は、脚体１に直接固定され得る底板２１ａと、この底板２１ａの各縁辺部から上方に板金素材を折り曲げ形成してなる立板２１ｂとを有している。そしてこれら立板２１ｂの上端には、天板形成体２２に密着し得るフランジ２１ｃが設けられている。

【００２６】

天板形成体２２は、上記箱体２１同様に板金素材を適宜折り曲げ成形した平面視矩形状をなすものであり、本実施形態では天板２の使用縁２５ｂ並びに反使用縁２５ｃを形成し得る第１の縁部２５と、この第１の縁部２５の端縁２５ａに直交する端縁２６ａを有する第２の縁部２６と、本実施形態では第１の縁部２５の下側に設けられ天板形成体２２の剛性を確保するための補強部２７とを有し、ここにもシート２３を密着させるものである。第１の縁部２５は、天板２の一端側をテーパ状、特に下面に斜めに折り曲げた使用縁２５ｂと、この使用縁２５ｂと対向する側において板金素材を直角に折り曲げ形成した反使用縁２５ｃとを有している。また、これら使用縁２５ｂ及び反使用縁２５ｃに対しても、上述した補強部２７が設けられている。

【００２７】

シート２３は、例えば、樹脂シート材からなる可撓性を有する膜状のものである。当該シート２３は、従来の家具に用いられているようなメラミン化粧板とは異なり、天板形成体２２の形状に適宜対応し得るよう所要の可撓性すなわち柔軟性を有している。シート２３は、基材である天板形成体２２の第１の縁部２５及び第２の縁部２６のそれぞれの端縁２５ａ、２６ａを被覆している。具体的には、第１の縁部２５に設けられた補強部２７をも被覆している。

【００２８】

エッジ材２４は、図３、図４に示すように、第２の縁部２６において基材たる天板形成体２２の裏面に配されたものであり、且つ、第２の縁部２６からはみ出ないように配されているものである。すなわち本実施形態では、前記基材の裏面に第１の縁部２５を補強するための補強部２７が設けられ、この補強部２７の厚み寸法が折り返し部たる使用縁２５ｂ、反使用縁２５ｃの折り返し寸法と略一致しており、第２の縁部２６にはエッジ材２４が設けられている。

【００２９】

ここで、本実施形態に係るデスクは、図５に示すように、複数の家具用パネル材たる天板２の第２の縁部２６同士を突合せて配置したときにシート２３が連続して見え、平面視に

10

20

30

40

50

においてエッジ材 2 4 は表面上見えないことを特徴とする。換言すれば、シート 2 3 が木目調をなす模様を配されている場合であっても、天板 2 の第 2 の縁部 2 6 同士を付き合わせて配置した場合には、当該模様の連続部分が目立たないように構成することができる。このように構成することで、平面視したときにエッジ材 2 4 を設けたときのような境界が見えないようになり、複数の天板 2 を隣接させているにもかかわらず、あたかも同一の大きな天板 2 が配されているかのような一体感が創出される。

【0030】

以上のように、本実施形態に係る本発明に係る家具用パネル材たるデスクの天板 2 は、薄板で構成された基材たる天板形成体 2 2 の表面にシート 2 3 を貼ったものであって、天板形成体 2 2 の第 1 の縁部 2 5 が表面側から裏面側に向かって折り返され、この折り返した折り返し部である使用縁 2 5 b 及び反使用縁 2 5 c がシート 2 3 で連続して被覆されており、第 1 の縁部 2 5 と交差する第 2 の縁部 2 6 がさらにシート 2 3 で連続して被覆されていることを特徴とする。また本発明に係るデスクは、家具用パネル材たる天板形成体 2 2 が天板を構成していることを特徴とする。

10

【0031】

斯かる構成により、図 5 に示すように同形状をなす天板 2 を並べるように配置したときに、それぞれの天板が有するシート 2 3 同士の境界が見え難くなり、より自然な見た目を提供することができる。

【0032】

上述したシート 2 3 をより強固に保持しようとするために本実施形態では、基材たる天板形成体 2 2 の裏面に補強部 2 7 を設け、補強部 2 7 の厚み寸法を折り返し部たる使用縁 2 5 b、反使用縁 2 5 c の折り返し寸法と略一致して補強部 2 7 が第 1 の縁部 2 5 の使用縁 2 5 b、反使用縁 2 5 c を補強し、第 2 の縁部 2 6 にはエッジ材 2 4 を設けるようにしている。

20

【0033】

さらに、基材たる天板形成体 2 2 に対してシート 2 3 を好適に被覆し得るようにするために本実施形態では、このシート 2 3 が、第 1 の縁部 2 5 および第 2 の縁部 2 6 における天板形成体 2 2 の端縁 2 5 a、2 6 a を被覆するように構成している。

【0034】

特に、天板 2 を複数並べた際に、シート 2 3 同士の境目をより目立たなくするために本実施形態では、第 2 の縁部 2 6 において天板形成体 2 2 の裏面にエッジ材 2 4 を配し、このエッジ材 2 4 は第 2 の縁部 2 6 から平面視においてはみ出していないように配するようにしている。

30

【0035】

すなわち、本発明に係る天板 2 は、同形状をなす複数の天板 2 の第 2 の縁部 2 6 同士を突合せて配置したときにシート 2 3 が連続して見え、エッジ材 2 4 は表面上見えない。

【0036】

以上、本発明の一実施形態について説明したが、各部の具体的な構成は、上述した実施形態のみに限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々変形が可能である。

40

【0037】

例えば上記実施形態ではシートが第 2 の縁部に配置されたエッジ材の内側に配される態様を採用していたが勿論、シートがエッジ材を被覆している態様としても良い。

【0038】

また上記実施形態では矩形状の天板を有したデスクに本発明を適用したが勿論、家具用パネル材とは天板のみに限定されるものではなく、立壁として設けられた家具用パネル材であったり、平面状ではなく湾曲形状に設けられたパネル材であったりしても好適に適用され得る。

【0039】

また、天板の具体的内容やシートの材質、エッジ部材の具体的な形状や仕様といったその

50

他の詳細な構成も、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々変形が可能である。

【符号の説明】

【 0 0 4 0 】

2 . . . 家具用パネル材（天板）

2 2 . . . 基材

2 3 . . . シート

2 5 . . . 第 1 の縁部

2 6 . . . 第 2 の縁部

2 7 . . . 補強部

2 4 . . . エッジ材

2 5 a、2 6 a . . . 端縁

10

20

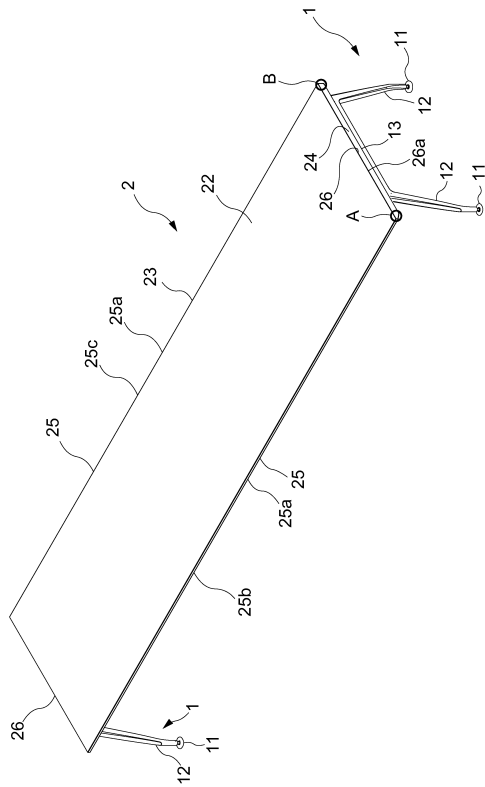
30

40

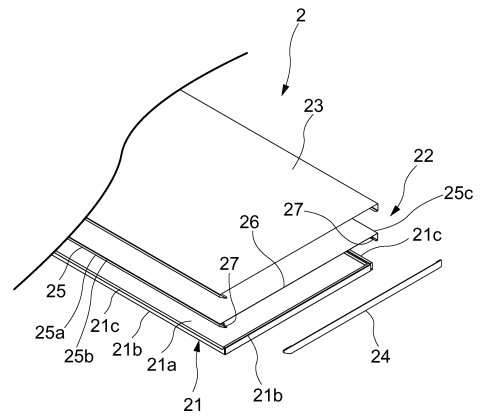
50

【図面】

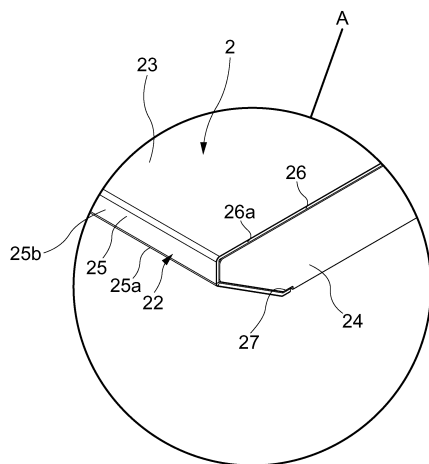
【図 1】



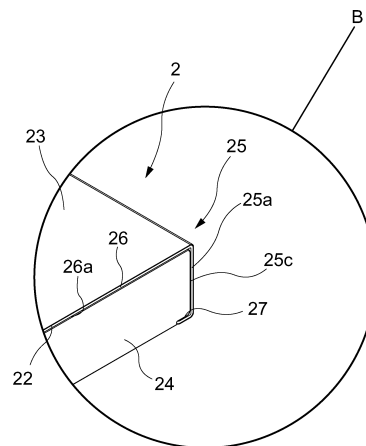
【図 2】



【図 3】



【図 4】



10

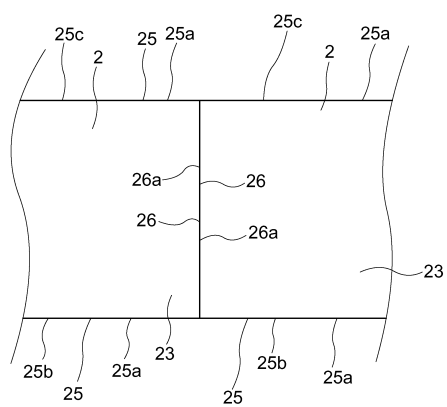
20

30

40

50

【図 5】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

審査官 七字 ひろみ

- (56)参考文献 特開平 09-000356 (JP, A)
特開平 05-018162 (JP, A)
実公昭 40-020417 (JP, Y1)
- (58)調査した分野 (Int.Cl., DB名)
A 47 B 96/18-96/20
A 47 B 13/08